第28回組合員女性研修会

紅葉も見ごろを終え、冬への身支度を急ぐ季節の中、11月1・2日の2日間、今年で28回目を迎えた組合員女性研修会は、全道各地から28名（内10名が初参加）の参加を得て、開催致しました。

【株式会社ベイリッチランドファーム】美瑛町

札幌駅集合後、車内でお弁当を食べながら、まずは二つ目の集合場所の旭川駅へと向かいました。

一年ぶりの再会にも拘らず目が合うだけで笑顔がこぼれるご婦人たちを乗せて、雄大な景色を眺めながら今回の研修場所である株式会社ベイリッチランドファームへと向かいました。

研修先では、現地集合の参加者が合流したほか、地元・美瑛町の当組合上田理事も駆けつけて頂きました。

最初、代表取締役である浦薫氏が案内役となり、牧場の概要を説明して頂きました。

株式会社ベイリッチランドファームは、北海道のほぼ中央、十勝岳連峰と夕張山系との間でなだらかな丘陵地帯が特徴である「丘のまち」美瑛町に位置しております。現在は経産牛170頭、育成140頭を飼養しており、平成27年から搾乳ロボット2基が稼動、飼料はTMRセンター「ジェネシス美瑛」より2日に1回配送されるTMRを給与しております。また酪農教育ファームや地域交流牧場として、社会貢献の活動にも力を入れております。搾乳牛舎では分娩房・バルク室・搾乳ロボット・フリーストールの順に施設内を移動しながらの研修となりました。

搾乳ロボットの様子

搾乳ロボットはLelly社「アストロノート」で、本体に設置されているモニターには、総生産乳量や1頭あたりの乳量及び搾乳回数等の情報が表示され、その内容についての説明のほか、搾乳ロボット導入の経緯から稼動後の効果、今後の課題等、参加者の皆さんは真剣に耳を傾けておりました。

フリーストールでは飼槽も牛床も乾燥しており、牛の快適性が窺えました。また、参加者から「頭数に対して、扇風機が少ないのでは？」との質問に対し「天井の断熱材が夏の日差しを大幅に緩和してくれるので問題はない。また、断熱材は冬季、牛舎内の温度を保つのにも役立っている。」との事でした。

次に哺育牛舎へ移動し、ここでは取締役であります奥様とお母様も説明に加わり、参加者からの活発な質問に答えて頂きました。哺育牛舎にも搾乳牛舎と同様の断熱材を天井と壁に施工しているほか、1頭1頭にヒーターを使用できるようにコンセントが配置されているなど、子牛の飼養環境の向上に力を入れておりました。

最後に、記念写真を撮影し牧場を後にしました。

（総務部　坂田）

【白金青い池】美瑛町

次に、株式会社ベイリッチランドファームからバスで1時間程の所に位置する『白金青い池』に立ち寄りました。

白金青い池

運よく11月1日から冬季限定ライトアップイベントが始まり、今回初めて訪れる方もおり、どんな幻想的な光景が見られるのかと期待をしていましたが、ライトアップ初日ということもあり、上手く光が当たらずに想像よりも暗く、綺麗に見られなかった方も居たかと思いますが、バスへと戻る直前に、やっと鮮やかなブルーの景色を一望することができました。

【大雪山白金観光ホテル】美瑛町

今回の宿泊先は、美瑛町にある『大雪山白金観

光ホテル』でした。このホテルは、大雪山国立公園の原始性豊かな大自然の風景美の中にあり、天然温泉完全放流式の温泉施設です。行程には入っておりませんでしたが、ホテルから歩いて３分の場所には、パワースポット白ひげの滝があり、ホテル到着後すぐに見に行かれた方もおりました。

夕食懇親会では景品をかけて列対抗の伝言ゲームや、毎年好評のバラエティに富んだプレゼント交換を行いながら、地元産の食材を使用した料理とお酒を楽しみ、ご婦人たちの笑い声がＢＧＭとなる賑やかな会となりました。

夕食懇親会の様子

【男山酒造り資料館】旭川市

夜中に降った雪がまだ地面に残る肌寒い朝でしたが、集合時間が早かったにも拘らず、元気なご婦人たちの姿に安心しました。

研修の２日目は『男山酒造り資料館の見学でした。入口にある大きな杉玉と酒樽に出迎えられ、見学が始まるとご婦人たちは熱心にガイドの説明に耳を傾け、10分弱のモニターを見た後は、日本酒の試飲や買い物を楽しんでおりました。

日本酒造りは、時間と手間ひまをかけ、愛情を注いで美味しくなるとありましたが、酪農においても手をかけるほどより良くなるのは同じですね。

皆様にご協力頂いたアンケートを基に、今後の研修をより良いものにと考えております。

「来年もまた参加しますね！」と嬉しい言葉もいただき、更に皆さんに楽しんでいただける研修会を実施していきたいと思っておりますので、今回ご参加いただいた皆さんも、まだ参加したことのない方は是非、次回のご参加を事務局一同心よりお待ちしております！

最後になりましたが、この研修会の取りまとめにご協力いただきました関係者の方々に深く御礼申し上げます。

（総務部　坂田・楠・石田）

全共 Spin off story No.15 積み重ね…

第14回全日本ホルスタイン共進会北海道大会を起点に全共とはほぼ関係のない話題でつづる『全共Spin off story』今号の話題は“積み重ね”です。

～牛のつむじ展～

読者の皆さんは、全共北海道大会の出品目録表紙やポスターに描かれていた写真かと見間違うような若雌牛の絵を覚えているでしょうか。あるいは、ジェネティクス北海道の広報誌『SIRE』の表紙に載っている牛の絵はご存知ですね。昨初冬、その画を描いている木版画家の冨田美穂さんの個展『牛のつむじ』展が札幌のギャラリーで開かれていました。私たちはギャラリーを訪問し、冨田さんからお話を伺いながら作品を鑑賞させていただきました。

～半年をかけて～

装飾を排してストレートに描かれた牛の木版画と水彩画はどれも素晴らしいものばかりで、そのなかでも制作に半年を要したという大きな木版画は、光と影を巧みに操り皮膚被毛の一本まで微細に表現されていて、あたかも牛がそこに“居る”かのようにさえ見えます。冨田さんの観察力の深さ、技術の高さ、才能の豊かさ、そして半年もの期間を費やす強い根気に感服しました。

大作をみて、『結果を得ようと願うなら、そこに到達するまでの経過が大事、一つ一つの細やかな作業の積み重ねが最良の結果を導く』と勝手に解釈し、これは私たちの生活や仕事全てに通じると感じました。牛造り、これも相通じるものがあるのではないかと思うのです。

冨田美穂さん（左）　作品に見入る藤澤参事 齋藤専務

-White-